

1. 内政

▼司法相の交替

・2日、最高会議は、ラヴリノヴィチ司法相他2名を最高司法評議会委員に選出。3日、同相は、最高会議において宣誓を実施し、委員に就任。4日、同評議会は、ラヴリノヴィチ委員を同委員長に選出。

・4日、ヤヌコーヴィチ大統領は、最高司法評議会委員に就任したラヴリノヴィチ司法相を解任し、またルカシュ閣僚会議相を解任し司法相に任命する大統領令を発出。

▼ティモシェンコ前首相等に関する動き

・1日、キエフ・スヴァトシン地区裁判所は、ルツェンコ元内相の逮捕拘束を指揮したクジミン次長検事等に対する刑事手続再開に関する同元内相による請求を棄却。

・5日、ハルキフ市キエフ地区裁判所は、ティモシェンコ前首相の不在を理由に同日予定していた「ウクライナ統一エネルギー・システム」社に関する同前首相に対する刑事事件の審理を8月16日に延期。

▼議会の動き

・2日、ドンブロフスキー最高会議議員は、同日、同議員の議員資格剥奪問題に関し欧州人権裁判所に提訴した旨発言。3日、ルィバク最高会議議長は、裁判所決定に基づきバローハ、ドンブロフスキー両無所属議員の議員証及び受給資格の剥奪等を宣言。これに対し、野党議員は、同行為は憲法違反であるとして、両議員の議員資格が完全に回復されるまで議会における投票には参加しない旨表明。4日、最高司法評議会副委員長は、両議員の議員資格剥奪の決定は合法であった旨発言。

・最高会議は、連合協定署名の条件に含まれている個人情報保護関連の法律を3日に、マスメディア関連の法律を4日に採択。

・4日、最高会議は、定年に達したシャポヴァル中央選挙管理委員会委員長の解任に関する決定を与党議員の賛成により採択。同日、同委員会は、マヘラ副委員長を委員長臨時代行に指名。一方、ヤツェニウク「バチキフシチナ」会派長は、同委員長の同意がないため解任の決定は違法であるとし、提訴する意向である旨発言。

・5日、ルィバク最高会議議長は、最高会議第7召集第2会期本会議の終了を宣言。次回第3会期は9月3日開始予定。

▼その他

・4日、ヤヌコーヴィチ大統領は、新任裁判官の宣誓式において裁判官の独立性の強化の重要性を強調し、同日、右を目的とした憲法改正に関する法案を最高会議に提出。同日、最高会議法政策委員会は、同法案の採択を最高会議に提案する旨決定。

・4日、「バチキフシチナ」会派は、法案の採択において会派の決定に反して投票を行ったクラブチューク議員を除名。

・5日、エフレモフ地域党会派長は、最高会議7小選挙区における選挙の実施日に関し、野党の提案も踏まえた上で、12月が適当である旨発言。

2. 経済

▼金融・財政

・2日、財務省は、本年1月～5月期の国家予算赤字が185億フリヴニャ(前年同期では22億フリヴニャ)であった旨発表。これに関して、パラシュニー「Concord Capital」アナリストは、国家財政状況は明らかに悪化しており、185億フリヴニャという数字はクリティカルではないが悪いニュースであり、この財政ギャップの拡大は本年後半も加速するであろう、更に悪いことに、国家予算への国立銀行の伝統的な支援は、今秋の市場における潜在的な国内通貨フリヴニャの価値下落を秘めており、極めてリスクが高くなるであろう旨発言。

・3日、格付会社「フィッチ・レーティングス」は、ウクライナのソブリン債の格付けに続き、10のウクライナの企業の格付に対する見通し(アウトルック)を「安定」から「ネガティブ」に引き下げた旨発表。同サービスは、ウクライナの外貨建及び自国通貨建の発行体デフォルト格付を長期的及び短期的ともにB(Highly speculative)としており、特に、自国通貨建の格付けに当たっては脆弱なGDP成長率や悪化するビジネス環境を含むウクライナの悪化する経済見通しを反映したものである旨言及。

▼法整備

・4日、最高会議は、国家予算の負債を解決するための提案を含む法案を採択。同法律によれば、政府は満期5年、年利5%の政府短期証券を発行することにより、付加価値税(VAT)の未払い金や他の負債を返済する義務を有する旨明記。

・4日、最高会議は、EBRD、IFCや他の国際金融機関が国内通貨フリヴニャでの債券を発行出来る権利を有する関連法案(このような債券で得られた財源を民間セクターに融資して経済活性化を図るのが同法案の目的)を可決。

・4日、最高会議は、自動車リサイクル税導入に関する2法案を採択。

▼農業

・4日、ビシウク農業政策・食料省第一次官は、ロシア南部での口蹄疫発生の報告を受けたため、ロシア産穀物のウクライナへの輸入・トランジットを同日付で禁止した旨発表。

・5日、プリシャジニウク農業政策・食料相は、2013/2014市場年において2,400～2,600万トンの穀物を輸出する計画である、この数字はウクライナの独立後最も大きい旨発

言。

▼ガス問題

・1日、エネルギー・石炭産業省は、2013年1－5月期の天然ガス輸入量を対前年同期比26.8%減の93億7,900万立方メートルと発表。

・2日、ボイコ副首相は、モスクワにおいてミレル・ガスプロム社長と会談し、秋冬期の準備状況に関し協議。同社長は、欧州への輸送量の確保のためウクライナの地下ガス貯蔵施設において190億立方メートル以上の備蓄が必要である旨発言。

・4日、ブリュッセルを訪問したスタヴィツキー・エネルギー・石炭産業相は、EUのエッティンガー・エネルギー担当欧州委員と会談し、欧州、特にスロバキアからウクライナへのガス供給に関する法的問題の解決策等につき協議。

▼その他

・1日、中国「Exim Bank」は、「Air Express Project」（キエフとボリスポリ空港間の高速鉄道建設で2015年に操業開始予定）のためのウクライナへの融資として、3億7,200万ドルに相当する融資限度額を設定した旨報告。当銀行はトランシェを2回（第1回目は5,200万ドルでサイトの準備作業費用、2回目は3億2千万ドルで基盤設備の建設費用）に分けて行い、15年間の年率3.5%の利子で返済を求める方針。

3. 外政

▼コジャーラ外相のトルコ訪問

・28日、コジャーラ外相は、訪問先のアンカラにおいてダーヴトオール外相と会談し、両国間戦略的パートナーシップの問題、特に政治対話、貿易・経済、防衛、エネルギー、運輸、領事及び文化分野の協力関係に関し協議。

・29日、コジャーラ外相は、チチェッキ議長と会談し、両国議会間関係に関し協議。また、同日、同外相は、イスタンブールにおいてOSCE議員会議年次会合に出席し、トレチャク黒海経済協力機構議員会議（PABSEC）事務総長と会談。

▼コジャーラ外相の訪独

・2日、訪独したコジャーラ外相は、ヴェスターヴェレ外相と会談し、EUとの連合協定署名問題等に関し協議。会談後、ヴェスターヴェレ外相は、ティモシェンコ前首相のベルリンにおける治療に関し現時点で両国間の合意には達しておらず、独からの提案が存在するのみである旨、また、連合協定署名の展望において同前首相の問題解決は象徴的な意味合いを有するとして、ウクライナは恣意的裁判問題を解決する必要がある旨発言。一方、コジャーラ外相は、同前首相が政治的意志のみにより釈放されることはなく、問題の法的側面が解決されない限りドイツにおける治療のための釈放は不可能である旨発言。

▼ヤヌコーヴィチ大統領のポーランド訪問

・3日、ヤヌコーヴィチ大統領は、ポーランドのヴィスワで開催されたV4＋ウクライナ首脳会合に出席し、主にウクライナ・EU連合協定署名問題等に関し協議。ヤヌコーヴィチ大統領は、

11月の連合協定署名のための条件の履行状況を説明し、必要な全ての法律が期限内に成立することを確言している旨発言。また、同大統領は、検察改革関連の法律はベニス委員会の評価を待つ必要があるとして9月の本会議で採択される見込みである旨発言し、コモロフスキ・ポーランド大統領及びガシユパロヴィチ・スロバキア大統領に対しウクライナへのガス供給源の多様化への協力に謝意を表明。会談後、コモロフスキ・ポーランド大統領は、ヤヌコーヴィチ大統領がウクライナの国内法により、あるいは法律の修正によりティモシェンコ前首相の問題を解決するための手段を探している旨述べたことにV4各大統領は満足しており、V4諸国はウクライナの欧州統合路線を支持する旨表明し、会合においてV4諸国ガス市場の創設に関しても協議された旨発言。また、コモロフスキ大統領は、1943－45年のヴォルニニの悲劇の犠牲者追悼のため7月14日にルツクを訪問する意向を表明し、ゼマン・チェコ大統領は、10月にウクライナを訪問する意向である旨発言。

▼パトリオッタ・ブラジル外相の来訪

・3日、アザーロフ首相は、来訪したパトリオッタ・ブラジル外相と会談し、共同宇宙計画「サイクロン－4－アルカンタラ」への融資問題及び第6回政府間委員会の開催問題等に関し協議。

・3日、コジャーラ外相は、パトリオッタ外相と会談し、両国戦略的パートナーシップの展望、2011年10月のヤヌコーヴィチ大統領のブラジル訪問時の合意の実施状況、ルセーフ・ブラジル大統領のウクライナ訪問を含む両国政治対話の活性化及び貿易・経済関係の発展等に関し協議。パトリオッタ外相は、オデッサ、ドニプロペトロフスク及びドネツクへの名誉領事館開設の意向を表明。

▼ロンバルディ・スイス全州議会議長の来訪

・3日、アザーロフ首相は、来訪したロンバルディ・スイス全州議会（上院）議長と会談し、貿易、投資分野における両国協力関係強化等に関し協議。

・3日、コジャーラ外相は、ロンバルディ議長と会談し、両国政治対話、2013年OSCE議長国ウクライナ及び次期同議長国スイスの優先課題等に関し協議。

・3日、ルィバク最高会議議長は、ロンバルディ議長と会談し、両国の友好議員連盟の活動を含む議会間対話の活性化等に関し協議。

▼ウクライナ・EU関係関連発言

・1日、外務省は、クロアチアのEU加盟及びリトアニアのEU議長国就任を祝福する声明を発出。同日、ヴァイテクナス・リトアニア大使は、ウクライナとの連合協定署名がEU議長国としてのリトアニアの主要な優先課題であるとしつつ、ウクライナは現時点では署名の準備ができていない旨発言。3日、ヴィドシェヴィチ・クロアチア大使は、クロアチアはEU加盟交渉プロセスの経験をウクライナと共有する用意がある旨発言。

・3日、グリボウスカイト・リトアニア大統領は、ティモシェンコ前首相の問題がウクライナの人権、司法改革、民主主義及び恣意的裁判問題の象徴となっている旨発言。また、4日、同大統領は、連合協定署名のために同前首相問題への対処は絶対に必要であり、同協定が署名されない場合、東方パートナーシップ政策は深刻な打撃を受け、長期にわたり中断するであろう旨発言。

・3日、トンビンスキーEU代表部大使は、ウクライナの査証免除化に向けた行動計画の履行速度に懸念を表明し、議会に対し最終段階まで審議を引き延ばさないよう呼びかけ。

・5日、ヤツェニウク「バチキフシチナ」会派長は、同日の野党代表とEU諸国大使との会合後、EU側からは連合協定署名のために必要な条件の履行期限は9月末であると明示された旨発言。

▼ティモシェンコ前首相問題関連発言

・1日、ティモシェンコ前首相の娘のエヴヘニヤ・ティモシェンコ氏は、同前首相の健康状態は悪く、緊急外科手術が必要であると独「シャリテ」病院医師団により診断された旨発言。同日、同病院長は、同情報を認め、同病院は同前首相を受け入れる用意がある旨表明。一方、同日、同前首相が入院しているハルキフの国鉄中央病院の主任医師は、同前首相の容態は安定している旨、また、同前首相はウクライナでの手術の実施に同意していない旨発言し、保健省は、同前首相の手術は現時点では検討されていない旨の声明を発表。2日、ティモシェンコ前首相のヴラセンコ弁護士は、同前首相の手術問題が解決されない場合、欧州人権裁判所に提訴する可能性がある旨言及。

・4日、コジャーラ外相は、政府は対EU関係の障害となっているティモシェンコ前首相問題の解決の意思があるとして、当初から政府との対話を拒否している同前首相側の意思により問題を解決することができる可能性がある旨、また、同前首相

は現在もウクライナ人医師による診察も拒否しており、同前首相が病気であるという法的証拠はない旨発言。また、アザーロフ首相は、同前首相の国外での治療問題に関し検討する余地はある旨言及。これに対し、5日、ヴラセンコ弁護士は、ヤヌコーヴィチ大統領には問題を解決する政治的意思はなく、コジャーラ外相の発言は欧州を欺くものである旨非難。

▼その他

・3日、アザーロフ首相は、ウクライナは経済協力開発機構(OECD)に加盟する意向がある旨発言。

・3日、ルカシュ閣僚会議相は、ユーラシア経済委員会におけるウクライナ代表にスロバキア元経済相が任命された旨発表。

・4日、ホンチャルク大統領補佐官は、ジュネーブを訪問し、同補佐官のWTOにおけるウクライナ代表就任式に出席。同補佐官は、ラミーWTO事務総長との会談において相互の関係改善及び関係深化に関し協議し、国内生産者の国際貿易における可能性の開発を目的として政府が行っている措置及びWTOとの協力問題に関する国家委員会の創設に関し説明。

4. 防衛

▼ウクライナ-ロシア-ベラルーシ合同軍事演習「スラブ共同体2013」

・1日、ウクライナ-ロシア-ベラルーシ合同軍事演習「スラブ共同体2013」がロシアのボルゴグラードで開始、3か国で約500人、約50車両が参加。

▼その他

・5日、ヤヌコーヴィチ大統領は、2013年のNATOとの協力計画の承認に関する大統領令に署名。

(了)